

日本発達系作業療法学会 第13回学術大会



笑顔とつながりを育む これからの作業療法

会場 東京保健医療専門職大学

(〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10)

会期 2025年3月15日(土)・16日(日)

令和7年2月吉日

病院長
施設長 殿
所属長

日本発達系作業療法学会 第13回学術大会

大会長 森田 浩美



日本発達系作業療法学会 第13回学術大会 出張許可のお願いについて

謹啓 時下、貴殿におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度下記の通り日本発達系作業療法学会 第13回学術大会を開催する運びとなりました。

つきましては、貴施設職員_____ 氏の学術大会出張に際し、
特段のご高配を賜りますよう謹んで祈念申し上げます。

末筆ではございますが、貴殿の益々のご健勝を祈念申し上げます。

謹白

記

会期 : 2025年3月15日(土)~3月16日(日)
会場 : 東京保健医療専門職大学 講堂
プログラム : 大会長講演、基調講演、スペシャル企画、シンポジウムⅠ・Ⅱ、
一般演題(口述)、機器展示・書籍販売

以上

<お問い合わせ>

■学術大会事務局 : 東京保健医療専門職大学 畠山研究室内
〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10
E-mail : hattatsuot13@gmail.com

日本発達系作業療法学会 第13回学術大会

目次

開催概要	1
大会長挨拶	2
会場アクセス	3
会場案内	5
参加者の皆様へ	6
演者・座長の皆様へ	7
日程表	9
プログラム	10
大会長講演	15
基調講演	17
スペシャル企画	19
シンポジウムⅠ	23
シンポジウムⅡ	27
一般演題	31
機器展示・広告掲載企業・団体一覧	56
謝辞	57
実行委員	58

開催概要

主 催 日本発達系作業療法学会

名 称 日本発達系作業療法学会 第13回学術大会

テ マ 笑顔とつながりを育むこれからの作業療法

開催形式 対 面

会 期 2025年3月15日(土)・3月16日(日)

会 場 東京保健医療専門職大学 講堂
(〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10)

大 会 長 森田 浩美(新宿区立子ども総合センター)

事 務 局 東京保健医療専門職大学 畠山研究室内
(〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10 畠山研究室内)
e-mail : hattatuot13@gmail.com

後 援 一般社団法人 日本作業療法士協会
一般社団法人 東京都作業療法士会

参 加 費

	会 員	非会員	学 生 (大学院生除く)	懇親会
事前登録	5,000円	6,000円	1,000円	6,000円
当日参加	5,500円	6,500円		

大会内容

- 講演 5題
(大会長講演、基調講演、スペシャル企画、シンポジウムI、シンポジウムII)
- 一般演題(口述発表) 24題
- 機器展示等業者 10社

大会長挨拶

日本発達系作業療法学会 第13回学術大会
大会長 森田 浩美
(新宿区立子ども総合センター)



このたび、第13回日本発達系作業療法学会学術大会を、2025年3月15日(土)、3月16日(日)に、東京保健医療専門職大学にて開催させていただくことになりました。東京で本学術大会が開催されるのは2回目となります。今回、大会長を仰せつかり、大変光栄に思うと同時にこのような大役が務まるのか不安でもありましたが、様々な『つながり』により素晴らしい方々とご縁を結ぶことができ、現在9名で大会準備を進めております。

今大会のテーマは、『笑顔とつながりを育むこれからの作業療法』といたしました。人とコミュニティとのつながり、他職種・OT間、関係機関・ライフステージ間のつながり、臨床と研究のつながりなど様々なつながりについて、みなさまと考えていきたいと思う所存です。

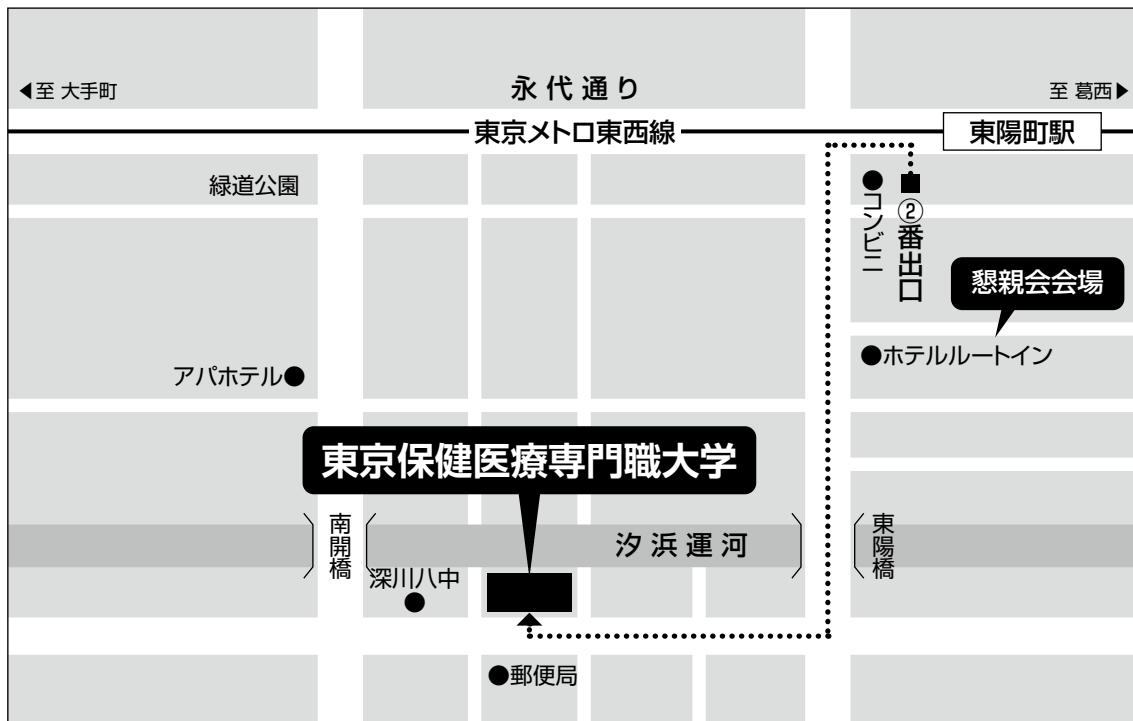
また、このような『つながり』の原点は、子どもの笑顔にあるのではないでしょうか。子どもの笑顔は、周囲の人たちをとても幸せな気持ちにさせてくれるだけでなく、脳や情緒の発達にも関係しています。作業療法の成果を示すひとつの指標でもあり、我々作業療法士へのご褒美ともいえます。笑顔が笑顔をよぶ、そのような循環を作業療法士が作っていけたら、という思いをテーマにしました。

会場は江東区、最寄り駅は東京メトロ東西線「東陽町駅」です。東京駅や羽田空港からのアクセスも良いので、ぜひ全国各地から多勢の方にご参加いただきたく思っております。

新たな『つながり』を築き『笑顔』でお帰りいただけるよう、実行委員一同真心を持って準備して参ります。

会場アクセス

会場：東京保健医療専門職大学 〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10



■電車でのアクセス

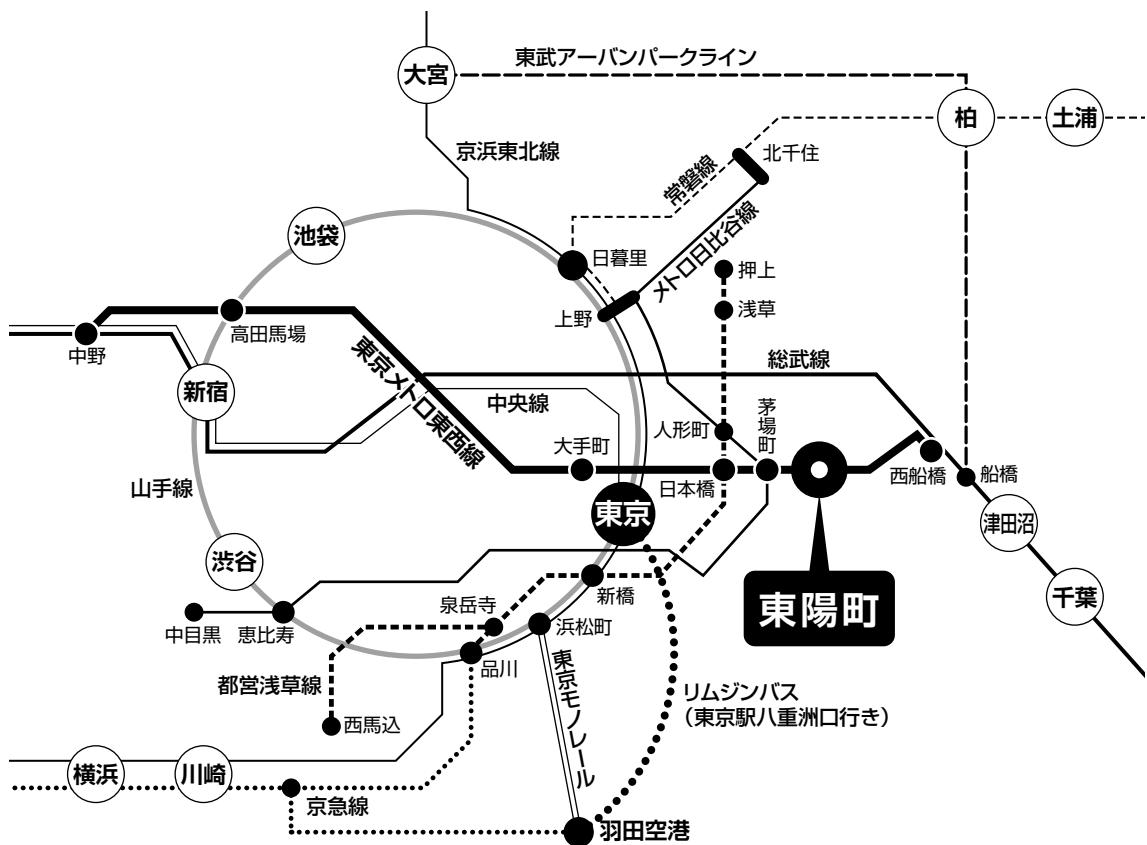
東京メトロ東西線「東陽町駅」②番出口から …… 徒歩10分

■都営バスでのアクセス

- 「錦糸町駅」から深川車庫行き都営バスに乗車し、「深川第八中学校」バス停下車 …… 徒歩2分
- 「豊洲駅」から東陽町駅行き都営バスに乗車し、「深川第八中学校」バス停下車 …… 徒歩2分

※会場には専用駐車場がございません。ご来場には公共交通機関をご利用ください。

東陽町駅までのアクセス



■ 空港からのアクセス

●京急線+都営地下鉄+東京メトロを利用する方法

- ①「羽田空港第1・第2ターミナル駅」又は「羽田空港第3ターミナル駅」から京急線アポート快特に乗車し、「日本橋駅」で下車
- ②「日本橋駅」から東京メトロ東西線に乗車し、「東陽町駅」で下車

●東京モノレール+JR+東京メトロを利用する方法

- ①「羽田空港駅(第1ターミナルまたは第2ターミナル)」から東京モノレールに乗車し、「浜松町駅」で下車
- ②「浜松町駅」からJR山手線内回り(東京・上野方面行き)に乗車し、「東京駅」で下車
- ③「東京駅」から「大手町駅」まで徒歩で移動
- ④「大手町駅」から東京メトロ東西線に乗車し、「東陽町駅」で下車

●リムジンバスを利用する方法

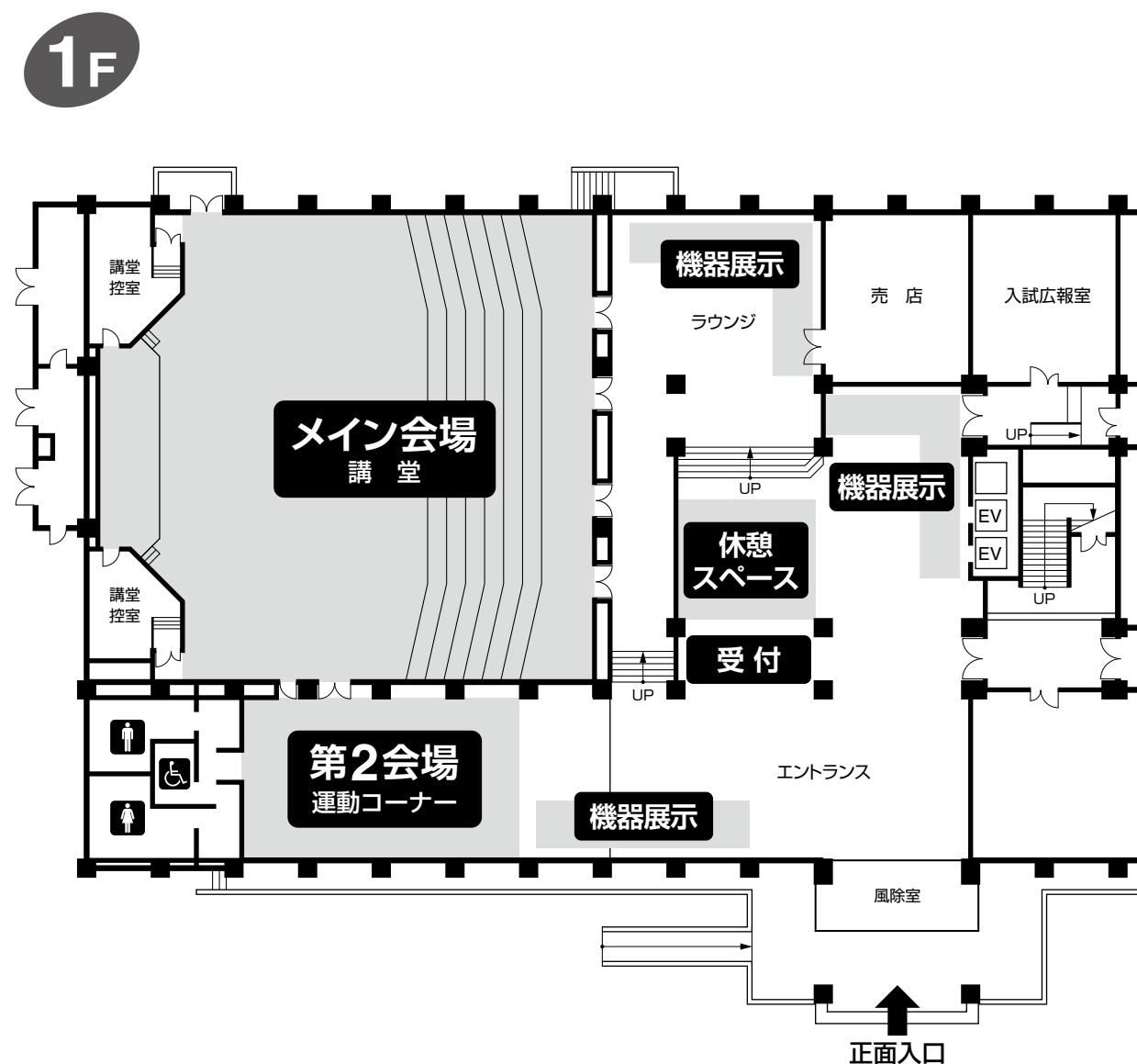
- ① 羽田空港から東京駅八重洲口行きのリムジンバスに乗車
- ②「大手町駅(東京駅)」から東京メトロ東西線に乗車し、「東陽町駅」で下車

■ 東京駅からのアクセス

●「大手町駅(東京駅)」から東京メトロ東西線に乗車し、「東陽町駅」で下車

※会場には専用駐車場がございません。ご来場には公共交通機関をご利用ください。

会場案内



参加者の皆様へ

受付について

- ・大会当日の受付は、下記の時間で行います。

日 付	時間帯	場 所
2025年3月15日(土)	11:00～	1階 受付スペース
2025年3月16日(日)	8:30～	

ネームプレート・参加証について

- ・ネームプレートを各自 Payvent からダウンロードし、事前に印刷していただき、当日会場にご持参ください。
- ・参加証は大会終了後に Payvent からダウンロードすることができます。

領収書について

- ・参加登録完了後、Payvent にて領収書の発行が可能です。
- ・領収書の宛名に所属先のみが記載されている領収書が必要な場合は、本大会事務局 (hattatsuot13@gmail.com) までご連絡ください。

抄録集について

- ・本大会の抄録集は PDF 版のみの配布となります。Payvent に登録して頂いたメールアドレスに事前に抄録集を配信いたします。

クローケについて

- ・荷物は必ず当日中にお引き取りください。
- ・万が一、会期中にお引き取りのない荷物は、スタッフの判断によって保管場所の移動などを行う場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・お預かりできないもの：現金などの貴重品、割れ物、食品、生もの

昼食について

- ・大会会期中、昼食の販売はありません。各自でご準備・ご持参いただくか、会場近隣の飲食店で昼食をとっていただくなどのご対応をお願いいたします。
- ・最寄り駅(東陽町駅)から会場までの経路にコンビニエンスストアがあります。
- ・会場で昼食をとっていただくことが可能ですが、会場に休憩スペースと自動販売機があります。

その他の

- ・会場には専用駐車場がございません。公共交通機関やタクシーをご利用ください。
- ・託児所はございません。ご了承ください。

演者・座長の皆様へ

受付について

- ・演者(講師・シンポジスト、一般演題発表者)及び座長の方々も大会当日には、「演者・座長受付」をお願いいたします。

発表データ受付

- ・演者の方々は、必ずご自身の発表前に、発表データの提出をお願いします。
- ・発表データの提出は、事前のメール送付をお願いいたします。事前のメール送付が難しい場合に限り当日にご提出ください。
- ・3月12日(水)21時までに、以下のメールアドレス宛に発表データをお送りください。
メールの件名に「発表データ提出(氏名)」を記載の上お送りください。
hattatsuot.13.endai@gmail.com
- ・事前に発表データを共有していただければ、事務局側で実際に使用するPCで動作確認を行います。ただし、動画が含まれているなどの理由で動作確認をご自身で行いたい場合には、その旨をメールにてご連絡いただけますと幸いです。

【当日にデータを提出する場合】

- ※発表データはUSBメモリに保存してご持参ください。
- ※ご自身が発表する会場で、発表データ受付担当者へUSBメモリをご提出ください。
- ※大会が準備したPCに発表データをコピーし、動作確認を行ってください。
- ※当日データ提出の受付時間は以下の通りです。受付時間内でのご提出をお願いします。

日付	時間帯	場所
2025年3月15日(土)	11:00～11:50	ご自身の発表会場 (講堂もしくは第2会場)
2025年3月16日(日)	8:30～8:50	

発表データの手続き

- ・発表は大会が準備するPCを使用し、PCプレゼンテーション(1面映写)で行っていただきます。
- ・個人のPCの使用をご希望の方は発表データ受付の際にお申し出ください。なお、念のため大会が準備したPCにデータのコピーを取らせていただきます。
- ・大会が準備するPCのOSはWindows 10、アプリケーションはWindows版PowerPointです。
- ・スライド作成はWindows版PowerPoint形式で行い、保存してください。
- ・フォントはWindowsのOSおよびソフトに標準装備されているフォント(MS・MSP明朝、MS・MSPゴシック、メイリオ、Meiryo UI、Arial、Times New Roman、Century等)を使用してください。これ以外のフォントを使用した場合、文字・段落のずれ、文字化け、表示されないなどの不具合が生じる可能性があります。
- ・発表用スライドファイルは、USBメモリに保存してご持参ください。USBメモリおよび発表用ファイルは必ずウイルスチェックを行ってください。
- ・発表用スライドファイルには「企画名_氏名」もしくは「演題番号_氏名」のファイル名を付けてください。例)「シンポジウムI_東京太郎」「III-3_江東花子」
- ・発表データは大会管理のPCにコピーしますが、大会終了後に責任を持って消去いたします。

発表の方法

1) 講師・シンポジストの方

- ・ご講演いただくプログラムの開始10分前までに会場前方の発表者席にお集まりください。
- ・発表データの画面送りは発表者ご自身で行ってください。
- ・レーザーポインターを準備いたしますので必要であればご使用ください。

2) 一般演題発表者の方

- ・メイン会場・第2会場ともに、ご発表いただくセッション開始5分前までに会場前方の発表者席にお集まりください。
- ・発表時間7分、質疑応答は3分です。時間厳守でお願いします。
- ・発表データの画面送りは発表者ご自身で行ってください。
- ・レーザーポインターを準備いたしますので必要であればご使用ください。

発表に関するお問い合わせ

hattatsuot.13.endai@gmail.com

※件名に「発表に関するお問い合わせ(氏名)」と記載の上ご連絡ください。

日 程 表

1日目 2025年3月15日土

メイン会場 講 堂		第2会場 運動コーナー
0		
0		
0		
0	11:00～受付	
0	12:00～開会式	
0	12:15～12:45 大会長講演 笑顔とつながりを育む これからの作業療法	講師：森田 浩美 座長：伊藤 祐子
0	12:50～14:40 シンポジウムⅠ 〔臨床につなげる 発達系作業療法の評価〕 岩永 竜一郎 辻 善城 田中 栄一 座長：中島 そのみ	
0	14:50～15:50 一般演題Ⅰ 5 演題 座長：仙石 泰仁	14:50～15:50 一般演題Ⅱ 5 演題 座長：吉田 雅紀
0	16:00～17:30 基調講演 笑顔を目指す発達支援 これからの支援の在り方について 講師：広瀬 宏之 座長：森田 浩美	
0		
0	18:30～20:30 懇親会 (会場：ホテルルートイン Grand 東京東陽町)	

2日目 2025年3月16日日

プログラム

1日目(3月15日土)

11:00～ **受付**

12:00～12:10 **開会式**

12:15～12:45 **大会長講演**

座長：伊藤 祐子(東京都立大学 健康福祉学部)

笑顔とつながりを育むこれからの作業療法

講師：森田 浩美(新宿区立子ども総合センター)

12:50～14:40 **シンポジウムⅠ** [臨床につなげる発達系作業療法の評価]

座長：中島 そのみ(札幌医科大学 保健医療学部)

ASD, ADHD, DCD など発達しうがい児の作業療法評価

岩永 竜一郎(長崎大学 生命医科学域, 長崎大学 子どもの心の医療・教育センター)

脳性麻痺について

～ジジイになってしまった作業療法士からのメッセージ

辻 善城(大阪赤十字病院附属大手前整肢学園)

進行性神経筋疾患における活動・参加を支える評価の視点と実践

田中 栄一(北海道医療センター 神経筋／成育センター)

14:50～15:50 **一般演題Ⅰ** (メイン会場)

座長：仙石 泰仁(札幌医科大学 保健医療学部)

I-1 ADHDと二分脊椎の診断を有する児に

CO-OPで立てた作戦を実行するための新たな作戦が有効だった症例報告

○友田 直哉¹⁾²⁾

- 1)社会福祉法人愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター,
- 2)大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科 博士前期課程

I-2 職場への本人理解を進めたことで就労の安定につながった事例

○増子 拓真

TASUC 株式会社

I-3 強迫性障害と不器用さのある症例に対する不安のコントロール

○松井 匠¹⁾, 中村 俊朗²⁾, 間部 裕代³⁾

- 1)医療法人桜十字 桜十字病院 リハビリテーション部, 2)医療法人桜十字 桜十字病院 小児科,
- 3)医療法人社団芳仁会 山口病院 小児科

I-4 運動学習の内省化によって投球動作の質的な改善が本人の自信へつながった一症例

○東海林 永遠¹⁾, 小玉 武志^{1,2)}

1) 発達支援事業所 きっずてらす, 2) 社会福祉法人恩師財団 済生会 みどりの里

I-5 本人の主体性を育むチームアプローチ：中学1年生男児のシングルケース報告

○奥川 純子, 仲間 知穂, 土屋 左弥子

YUIMAWARU 株式会社

14:50～15:50 **一般演題Ⅱ** (第2会場)

座長：吉田 雅紀(北海道療育園)

II-1 手作りアイテムによって、外界へ気づきが広がり、自己表出が増えた重度重複障害者の一症例

○神内 万土香, 米持 喬

社会福祉法人愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター

II-2 段階的な賞賛が食事意欲向上と自食動作の定着につながった事例

○伊藤 竜哉¹⁾, 三谷 紘世¹⁾, 阿部 佳穂¹⁾, 黒崎 佳奈¹⁾, 小玉 武志¹⁾, 中村 裕二²⁾

1) 北海道済生会 小樽病院 みどりの里, 2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

II-3 重症心身障害児の思いが学校の先生に伝わるまで

～保育所等訪問を通して個別療育の内容を学校へ繋げていく～

○前田 千智

株式会社リニエ L リニエプラットア波座

II-4 自己決定の支援が作業遂行の達成につながった CO-OP を用いた取り組みについて

○山本 柚葉, 松田 大輔

こども発達支援ルーム PLANET

II-5 3種類の関係性の理解学習 ～神経発達症児による研究から～

○塙 杉子¹⁾, 浅野 大喜²⁾, ティロー バンジャマン³⁾, 東恩納 拓也⁴⁾,
スパシュニック松田 直子⁵⁾, 太田 篤志⁶⁾

1) 名古屋女子大学, 2) 日本バプテスト病院, 3) 東北大学, 4) 東京家政大学, 5) メリーランド州公立学校,
6) 株式会社アニメーション プレイジム

16:00～17:30 **基調講演**

座長：森田 浩美(新宿区立子ども総合センター)

笑顔を目指す発達支援 これからの支援の在り方について

講師：広瀬 宏之(横須賀市療育相談センター)

18:30～20:30 **懇親会**(ホテルルートイン Grand 東京東陽町)

8:30~

受付

9:00~10:30

スペシャル企画 [こどもの笑顔とつながりを作る仕組みと発達系作業療法とのつながり]

座長: 加藤 寿宏(関西医科大学 作業療法学科)

こども政策全体の中での障害児施策について

鈴木 久也(こども家庭庁 支援局 障害児支援課)

こどもを育てるに携わる作業療法士として

酒井 康年(うめだ・あけぼの学園, 日本作業療法士協会)

10:40~11:40

一般演題Ⅲ(メイン会場)

座長: 石附 智奈美(広島大学大学院 医系科学研究科)

III-1 こどもの参加質問紙の縦断的測定特性: 信頼性, 反応性, 解釈可能性

○中村 拓人¹⁾, 小塩 育²⁾, 丸山 祥³⁾⁴⁾, 池田 公平¹⁾, 長山 洋史¹⁾, 笹田 哲¹⁾

1) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科,

2) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科(学部4年生),

3) 湘南慶育病院 リハビリテーション部, 4) 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科

III-2 自閉スペクトラム症の未就学児のメンタルヘルス:

Strengths and Difficulties Questionnaire の潜在移行分析

○小塩 育¹⁾, 中村 拓人²⁾, 長山 洋史²⁾

1) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科(学部生),

2) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科

III-3 協調の困難さがある子どもに対する作業遂行への介入が子ども, 養育者に及ぼす影響

○勝原 勇希¹⁾²⁾, 中井 昭夫²⁾³⁾

1) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科, 2) 武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科,

3) 武庫川女子大学 教育総合研究所

III-4 通常学級におけるOTと教員の協業の要素: 質的記述的研究

○三岡 莉子¹⁾, 平山 理花¹⁾, 五十嵐 剛²⁾, 高島 理沙³⁾

1) 北海道大学大学院 保健科学院 保健科学コース リハビリテーション科学科目群,

2) 名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻,

3) 北海道大学大学院 保健科学研究院 リハビリテーション科学分野

III-5 高等支援学校における学校作業療法の意義

—教師・教頭へのアンケートインタビューに基づいて

○仲間 知穂¹⁾, 高橋 香代子²⁾, 土屋 左弥子¹⁾, 長 志保⁴⁾, 東恩納 拓也³⁾

1) YUIMAWARU 株式会社 こどもセンターゆいまわる, 2) 北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科,

3) 東京家政大学 健康科学部 リハビリテーション学科, 4) 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科

IV-1 自閉スペクトラム症児における運動時の自律神経活動の変化

～作業療法を継続した3名の1年後～

○杉山 志保¹⁾, 植葉 俊一²⁾

1) 静岡済生会総合病院 静岡済生会療育センター令和 療育技術科, 2) 静岡済生会総合病院 精神科

IV-2 下じきの工夫が運筆操作へ及ぼす影響○村松 夏海¹⁾, 伊藤 祐子²⁾, 山西 葉子²⁾, 助川 文子³⁾

1) さいたま市総合療育センターひまわり学園, 2) 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域, 3) 県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学コース

IV-3 限局性学習障害一事例に対する「算数障害のフローチャート」評価に基づいた支援とその効果について○伊藤 美希¹⁾, 仙石 泰仁²⁾, 阿部 正之³⁾, 丹羽 美希¹⁾, 迫 知輝³⁾, 人見 知洋⁴⁾

1) 社会医療法人北斗 北斗病院 リハビリテーション部 作業療法科, 2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科, 3) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科, 4) 社会医療法人北斗 北斗病院 小児科こども総合センター

IV-4 放課後等デイサービスにおける感覚統合療法の効果研究

～身体機能面の評価結果の3項目～

○奥田 歩¹⁾, 世良 彰康²⁾, 仙石 泰仁³⁾

1) 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 理学療法学作業療法学専攻 感覚統合障害学分野, 2) 合同会社北海道療育研究所 こども支援ルーム, 3) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

IV-5 感覚統合療法の視点を取り入れた小集団活動において家族に役だったことはなにか～SCATによる分析～

○佐々木 清子

東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

11:50～

総 会

13:00～13:50

一般演題V(メイン会場)

座長：有川 真弓(千葉県立保健医療大学 リハビリテーション学科)

V-1 知的障がい者施設就労継続支援 B型事業所におけるダンス活動の導入

～生活とステージに華を咲かせよう～

○角田 実花, 堀口 淳

社会福祉法人こころみの会

V-2 自閉スペクトラム症が疑われる子どもと家族の活動及び生活への参加の改善を目指した一例

○石井 ハル, 石井 真智子, 菅 圭太郎

一般社団法人 CIS

V-3 小集団作業療法により食事と階段昇降の自立度が向上した幼児の事例○新井 七海¹⁾, 東恩納 拓也¹⁾²⁾

1) LIBO らぼ でんえんちゅうふ, 2) 東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科

V-4 保護者との協働により本人の「伝えたい」気持ちが育った事例

○秋庭 伶香

TASUC 株式会社 新宿早稲田教室

14:00～15:40 シンポジウムⅡ [未来につなげる発達系作業療法の実践]

座長：東恩納 拓也（東京家政大学 健康科学部）

脳性麻痺児・者の姿勢の特性を踏まえた ADL 支援

米持 喬（大阪発達総合療育センター）

子どもの自己実現に向けた共創

小玉 武志（北海道済生会みどりの里、発達支援事業所きっすてらす）

学齢期から成人期へ 参加と自律性を育む作業療法とは

助川 文子（県立広島大学 保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法学コース）

15:50～

閉会式・次期大会紹介

大会長講演

〔笑顔とつながりを育むこれからの作業療法〕



笑顔とつながりを育む これからの作業療法

森田 浩美

新宿区立子ども総合センター

【略歴】

[資格]

- ・作業療法士
(東京都立医療技術短期大学)
- ・保健医療学博士
(国際医療福祉大学)

[職歴]

- ・心身障害児総合医療療育センター
- ・国際医療福祉大学 小田原保健医療学部
- ・世田谷区保健センター
- ・狛江市児童発達支援センター
- ・新宿区立子ども総合センター ほか

[著書等]

- ・脳性麻痺児の手の機能、坐位姿勢、遊び。ボバースジャーナル26(1)40-43, 2003.
- ・なぜ「金」なのか ある視覚障害を伴う発達障害児が目を向ける対象の探究。作業療法23(5)425-437, 2004.
- ・ゴールドマスター テキスト 発達障害作業療法学 2. 姿勢と運動のアプローチ: 脳性麻痺を中心には、メジカルビュー社2021.
- ・ゴールドマスター テキスト 作業療法学概論 2. 作業療法の歴史 2. 日本の作業療法 ①肢体不自由児の作業療法(高木憲次), メジカルビュー社2021.
- ・ゴールドマスター テキスト 作業療法学概論 6. 作業療法の理論, モデル, ツール 3. 発達理論と作業療法, メジカルビュー社2021.

など

作業療法、つながり、ときたらまず真っ先に頭に浮かぶのは私のセンターである鎌倉矩子先生である。鎌倉先生との出会いは都立医療技術短期大学(現東京都立大学)であった。私は先生を追い求める形で勉強し、学士論文、修士論文、博士論文のすべてを先生に導いていただくこととなった。先生の凛とした立ち姿、切れ味鋭い語り口調、獨特な表現、プライベートで垣間見せたおしゃめな一面、すべてが尊敬に値した。私は信仰宗教を持たないが、強いていうなら生粋の『鎌倉教』である。残念ながら鎌倉先生は一昨年この世を去ってしまったが、文字でしかその名を知らない若い作業療法士の方々にもちょっと先生のことを知っていただきたいと思うのである。

私の作業療法士人生は『心身障害児総合医療療育センター(東京都板橋区小茂根)』から始まった。ここは、療育の父と称される高木憲次先生が創設した施設である。『療育とは、現代の科学を総動員して不自由な肢体を出来るだけ克服し、それによって幸にも恢復したら『肢体の復活能力』そのものを(残存能力ではない)出来る丈有効に活用させ、以て自活の途の立つように育成することである』という故高木憲次先生の療育の理念が脈々と後世に受け継がれている場所であった。私はそこで素晴らしい同僚や先輩に出会い作業療法士としても人としても育てていただいた。その関係は今でもつながっている。

作業療法士として長年臨床を続けて来られたのは、多くの担当児との出会いがあったからにほかならない。臨床は難しいがおもしろい。どれほど経験を積んでも、これでいいのだ!という答えは見つからず日々悩む毎日である。しかし子どもの笑顔や喜ぶ姿を見るたび、ああ、これだからOTってやめられない、と思うのである。今でも、子どもの笑顔や喜びは、私にとって最高のご褒美である。これまで出会った多くの子どもたちとのエピソードを少しご紹介したい。

機器展示・広告掲載企業・団体一覧

【広告企業・団体一覧】

- ・株式会社アネビー
- ・ラックヘルスケア(株)
- ・有限会社コス・インターナショナル

(お申し込み順)

【機器展示企業・団体一覧】

- ・ラーゴム・ジャパン株式会社
- ・株式会社アネビー
- ・ラックヘルスケア(株)
- ・パシフィックサプライ株式会社
- ・富士フィルムシステムサービス株式会社
- ・(株)キボロコ
- ・株式会社クレアクト
- ・できるびより／株式会社オフィスサニー
- ・株式会社クリエイツかもがわ
- ・有限会社コス・インターナショナル

(お申し込み順)

謝 辞

■会場運営スタッフ

齋藤 悠太(港区立児童発達支援センターぱお)
饗場 万智(Bring up ちば子ども発達センター)
長井 友佳(筑波記念病院)
松本 恵実(島田療育センターはちおうじ)
波田 真尋(光の家療育センター)
本間 紀羽(東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科)
遠藤 結月(東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部)
村上 花菜(東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部)
峯尾 歩果(東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部)
渡邊 愛矢(東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部)
三輪 和弘(東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部)
吉川 智絵(東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部)
山本 陽葉(東京都立大学 健康福祉学部)
神原 花音(東京都立大学 健康福祉学部)
舟田 香穂(東京都立大学 健康福祉学部)
深町 彩乃(東京家政大学 健康科学部)
田中 芽希(東京家政大学 健康科学部)
小林 千夏(東京家政大学 健康科学部)
清水 映花(東京家政大学 健康科学部)
辰嶋 美海子(東京家政大学 健康科学部)
本橋 実奈(東京家政大学 健康科学部)

■デザイン(ポスター、参加記念品、スタッフウェア等)

村山 恵実子

■ポスター顔写真提供

ご賛同いただいたすべてのお子様、ご家族様

(以上、敬称略)

日本発達系作業療法学会 第13回学術大会の開催にあたり多大なご支援をいただきました。
心より御礼申し上げます。

実行委員

大 会 長 森田 浩美(新宿区立子ども総合センター)

実行委員長 東恩納 拓也(東京家政大学 健康科学部)

事 務 局 長 畠山 久司(東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部)

実 行 委 員 伊藤 祐子(東京都立大学 健康福祉学部)

加藤 由里(新宿区立子ども総合センター)

久米 洋子(所沢市こども支援センター・発達支援エリア マーガレット)

斎藤 奈津生(有限会社オフィスエー・スマイル訪問看護ステーション)

野田 遥(株式会社 LITALICO)

山西 葉子(東京都立大学 健康福祉学部)

(以上、五十音順、敬称略)

日本発達系作業療法学会 第13回学術大会 プログラム・抄録集

主 催：日本発達系作業療法学会

大 会 長：森田 浩美

事 務 局：東京保健医療専門職大学 畠山研究室内

〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10

E-mail : hattatsuot13@gmail.com

出 版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL : 096-382-7793 FAX : 096-386-2025

<https://secand.jp/>